

平成 26 年度
「こども未来会議室」
報告書

船橋市



もくじ

はじめに	1
概要	1
市民団体の紹介	4
「こども未来会議室」提案ランキング	5
提案と市の回答	6

第1位 「船橋の良さや特産物などをPRするまちへ」	6
「広報官から中学生の皆さんへ」	7
第2位 「道路を広くし街灯を増やして、より安全なまちへ」	8
第3位 「ボール遊びができる公園をつくり、スポーツがより盛んなまちへ」	9
第4位 「ポイ捨てを減らして、きれいなまちへ」	9
第5位 「音楽ホールをつくり、音楽が盛んなまちへ」	10
第6位 「バリアフリーを進めて、高齢者にも障害者にも住みやすいまちへ」	11
第7位 「積極的にイベントを開催し、地域交流の盛んなまちへ」	11
第8位 「交通の便を良くしたり、交通渋滞を解消して、暮らしやすいまちへ」	12
第9位 「あいさつ運動を推進して犯罪を減らし、犯罪に強いまちへ」	12
第10位 「勉強スペースの確保や学校図書館の充実により、勉強のしやすいまちへ」	13
第11位 「自然環境にやさしいまちへ」	13
第12位 「国際交流の盛んなまちへ」	14
第13位 「子育てのしやすいまちへ」	14
第14位 「防災に強いまちへ」	15
番外 「立体機械式地下駐輪場を新設してほしい！」	16

はじめに



今年度初めて開催した「こども未来会議室」は市内の中学2年生を対象として、夏休み期間中、全5回にわたり開催しました。

各中学校の代表として参加した皆さんにとっては、自分たちもまちづくりの担い手になれることを意識できたと思いますし、多くの市民の方々の力によって、市が大きく発展していることを実感してもらったと思います。

中学生の皆さんの提案は新鮮であると同時に、皆さんが真剣に自分の住むまちのことを考えていることが分かり、市民団体との連携を含め、本市のまちづくりにとって収穫の多い会議でした。

中学生の皆さんからいただいた素晴らしい提案に対しては、市の将来に向けてどのようなことが実現できるのか、関係部局と協議を重ねてこの報告書を作成しましたので、中学生の皆さん、そしてお父さん、お母さんにも、ぜひ読んでいただきたいと思います。

中学生の皆さん素晴らしい提案をおめでとう！
船橋市長 松戸 徹

概要

1 名称

「こども未来会議室 ～船橋の未来に“たね”をまこう～」

2 目的・運営

子供たちと市長が船橋の将来を語り合う場「こども未来会議室」を実施しました。これは、船橋市の現状を子供たちに伝え、まちづくりを意識してもらうとともに、将来を見据えた意見交換を行い、市政運営に子供たちの視点を活かしていくことを目的として実施したものです。市若手職員（広報課、政策企画課、教育総務課、市民の声を聞く課）と市内の関係団体（さざんか募金運動推進協議会、船橋商工会議所青年部、船橋法人会青年部会、船橋青年会議所）による「こども未来会議室プロジェクトチーム」を立ち上げ、企画・運営をしました。

3 対象

市内中学校の2年生（参加校：28校 各校原則2名）

4 内容

・第1部 テーマに沿った意見発表 【第1会議室】

【「私たちが市長になったら〇〇します！」～船橋をいま以上に住みよい街にするために～】というテーマについて、各学校で話し合った



意見発表の様子

結果を代表生徒から市長に向けて発表してもらいました。

中学生ならではのものや、船橋市の現状をしっかりと見据えたものまで、さまざまな提案が直接市長に伝えられました。

この提案一つひとつに対し、市長は、担当部署との検討が必要なもの、船橋市の現在の取り組みや今後の見通し、まちづくりとはどういうものかなどを丁寧に説明し、船橋市をより良くするための意見交換がなされました。

生徒が発表した提案と提案に対する回答については、6ページ以降に記載しています。

・市長室見学ツアー【市長室】

最初に市長から参加生徒へ、市長室全体の案内と市長室でどのような仕事を行っているか、説明がありました。

その後、生徒が順番に市長の椅子に座り、市長や「目利き番頭 船えもん」と一緒に記念写真を撮影しました。生徒は市職員でも滅多に入ることが出来ない市長室に興味津々の様子でした。

・第2部 フリートーク【第2 応接室】

船橋の現状を把握しながら、生徒、市長、市民団体、市若手職員でざっくばらんにフリートークを行いました。市長からは、将来の夢の事、部活動の事、小学校での英語の授業の事、学校給食の事、タブレットPCを使用した授業の事など、さまざまな質問があり、それぞれの質問に対し、生徒からたくさんの意見が出ました。

英語の授業については、「面白いので授業数を増やしてほしい。」「もっとレベルを上げてほしい。」などの意見があり、学校給食については、「メニューを選べるのは嬉しい。」「学校で作っているので温かいまま食べられる。」「ランチルームで楽しく食べることができる。」などの意見がありました。

また、フリートークが始まる時に、船えもんがふなばし産品ブランドの「船橋ばか面おどり」の人形焼を生徒に配布しました。

生徒からは「おいしい。」「船えもん、かわいい。」「ふなばし産品ブランドって初めて知った。」などの声があがり、船橋市の観光・特産品を知るきっかけとなったようでした。終始、なごやかな雰囲気意見交換がなされ、大いに盛り上がりました。

最後に生徒、市長、船えもんで記念写真を撮影し、終了しました。



市民団体の活動内容を説明



市長室見学ツアーの様子



市長・船えもんと一緒に記念撮影



フリートークの様子



市民団体の方と談笑

5 開催

市域を北部、中部、東部、南部、西部の5ブロックに分け、各ブロック1回、開催日の午前中に市役所9階の第1会議室・市長室・第2応接室で開催しました。

開催日	第1回（北部） 7月22日(火)	第2回（中部） 7月29日(火)	第3回（東部） 7月31日(木)	第4回（南部） 8月5日(火)	第5回（西部） 8月11日(月)
開催時間	9:00～12:00 集合：市役所9階第1会議室に8:30				
学校内訳 および 生徒推薦数 (各校2人)	八木が谷中	御滝中	前原中	船橋中	葛飾中
	古和釜中	高根中	二宮中	湊中	行田中
	坪井中	金杉台中	飯山満中	宮本中	法田中
	大穴中	芝山中	七林中	若松中	旭中
	豊富中	高根台中 (生徒3人)	三田中	海神中	(私) 千葉日大第一中
	小室中	習志野台中	三山中		
生徒数	12	13	12	10	10



第1回開催 集合写真



第2回開催 集合写真



第3回開催 集合写真



第4回開催 集合写真



第5回開催 集合写真



市民団体の方々 集合写真

市民団体の紹介

企画・運営から携わっていただいた市民団体を紹介します！

(1) さざんか募金運動推進協議会

さざんか募金運動推進協議会は、各種チャリティー事業を展開したり、「育てよう美しい心」をテーマに、青少年の健全育成を推進する公益信託制度「コミュニティ・ファンド（地域基金）＝さざんかさっちゃん教育基金」の事業も行っています。

船橋駅コンコースのJR線と東武アーバンパークラインの間にシンボル像「さっちゃん像」があり、皆さんの「待ち合わせスポット」として、活用されています。ちなみに、この像は募金箱でもあります。



船橋市民のシンボル
「さざんかさっちゃん」

(2) 船橋商工会議所 青年部

次世代の地域経済を担う後継者の相互研鑽(けんさん)の場として、また、青年経済人として資質向上と会員相互の交流を通じ、己(おのれ)の企業の発展と豊かな地域経済社会を築くことを目的として活動しています。



(3) 船橋法人会 青年部会

会社を経営するには切っても切り離せないのが納税(税金)です。法人会というのは、全国に100万社の会員企業があり、「税」をキーワードに健全な会社経営、経営者育成を目指し、研修会や専門的勉強会、親睦会など各所管税務署や関係諸団体の協力を得て、様々な事業やイベントを開催しています。

その中でも、青年部会は50歳までの経営者や次世代の企業経営者になる若者に更なるステップアップや仲間を増やし、友情を育むことを目的に掲げて地域の発展と企業の繁栄を目指し、活動している団体です。



(4) 船橋青年会議所

青年会議所とは20歳から40歳までの青年が、明るい豊かな社会の実現を理想とし「修練」「奉仕」「友情」の三つの信条のもと、よりよい社会づくりをめざし、ボランティアや行政改革等の社会的課題に積極的に取り組んでいます。

また、世界125か国17万人を超える会員がいる国際的な組織でもあり、日本では全国47都道府県の698地域に、約36,000人の会員がいます。卒業したOBは世界で250万人以上、元アメリカ大統領のビル・クリントン氏やマイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏なども所属していました。

日本では元内閣総理大臣の小泉純一郎氏、その息子の小泉進次郎氏なども現役で活動しています。

船橋青年会議所では次代の社会の担い手、推進力として明るい豊かなまちづくりの実現のために、市民運動の先頭に立って活動しています。



「こども未来会議室」提案ランキング

順位	内 容
1	船橋の良さや特産物などをPRするまちへ
2	道路を広くし街灯を増やして、より安全なまちへ
3	ボール遊びができる公園をつくり、スポーツがより盛んなまちへ
4	ポイ捨てを減らして、きれいなまちへ
5	音楽ホールをつくり、音楽が盛んなまちへ
6	バリアフリーを進めて、高齢者にも障害者にも住みやすいまちへ
7	積極的にイベントを開催し、地域交流の盛んなまちへ
8	交通の便を良くしたり、交通渋滞を解消して、暮らしやすいまちへ
9	あいさつ運動を推進して犯罪を減らし、犯罪に強いまちへ
10	勉強スペースの確保や学校図書館の充実により、勉強のしやすいまちへ
11	自然環境にやさしいまちへ
12	国際交流の盛んなまちへ
13	子育てのしやすいまちへ
14	防災に強いまちへ
番外	立体機械式地下駐輪場を新設してほしい！

・この表は、中学生の皆さんからいただいた提案を内容ごとに分類し、提案数の多い内容から順位付けしたものです。

提案と市の回答

第1位 船橋の良さや特産物などをPRするまちへ

中学生の皆さんは、船橋市で発行している「広報ふなばし」を見たことがありますか？船橋市の情報がたくさん掲載されている「広報ふなばし」は平成26年6月にリニューアルし、新コーナー「船橋の魅力発信！」を設けました。このページでは、各分野で活躍する様々な人・団体（学校や児童・生徒も含む）と良質な産品、歴史や文化、イベントなどを特集記事で紹介していますので、ぜひご覧ください。



リニューアルされた広報ふなばし

平成26年度から、魅力あふれる船橋を市内外に紹介するために制作した市政記録映画「船橋 その魅力」を動画共有サイト「YouTube」で公開しています。英語字幕版も制作しましたので、世界に向けて船橋の魅力を発信することも可能になりました。この映画を見てもらうことで、船橋を知り、船橋に住みたい、これからも住み続けたいと思う人が増えてくれることを期待しています。



市政記録映画「船橋 その魅力」

市内の観光スポットなどを紹介した外国人向けパンフレットを作成しました。言語は英語・中国語（簡体字、繁体字）・ハンガルの3か国語です。この冊子は海外を訪問する市民の方々にも配布し、地元・船橋を紹介するコミュニケーションツールとしても活用してもらいます。このパンフレットと合わせて、海外に対する情報発信を強化するため、新たに「外国人向け特設サイト」を市ホームページ内に設けました。

平成26年度も船橋の魅力を発信するため様々な事業に取り組みましたが、市内及び市外そして世界に向けた情報発信はまだまだ十分な状況とは言えません。今後、中学生の皆さんからの提案を受け、テレビやラジオ、雑誌等に取り上げてもらえるよう、積極的にPR活動を展開していきます。その際には、動画もこれまで以上に活用します。「市民の方々に市のPR映像を作成してもらう」という素晴らしい提案もありましたので、それを受けて、平成29年度の市制80周年に向けて、「船橋の魅力」をテーマにプロモーションビデオ（PV）の公募を検討しています。

船橋市観光PRビデオ「船橋市役所 特案係」を平成27年2月16日から動画共有サイト「YouTube」で公開しています！

おもしろいので、中学生の皆さん、ぜひ見てみてください！

これは、船橋市役所内の架空の部署「特案係（特殊案件発生時例外行動特別認定処理専門係）」に所属する主人公などが、謎の男「ミスターF」から指令を受けて観光スポットを紹介していくというドラマ仕立ての展開となっています。エンディング曲などは、駅前や商店街をステージにしたライブ「まちかど音楽ステージ」の出演者が制作しました。今後は、市民エキストラの出演など、市民の方々の協力を得ながら制作していきます。



船橋市観光PRビデオ
「船橋市役所 特案係」

広報官から中学生の皆さんへ

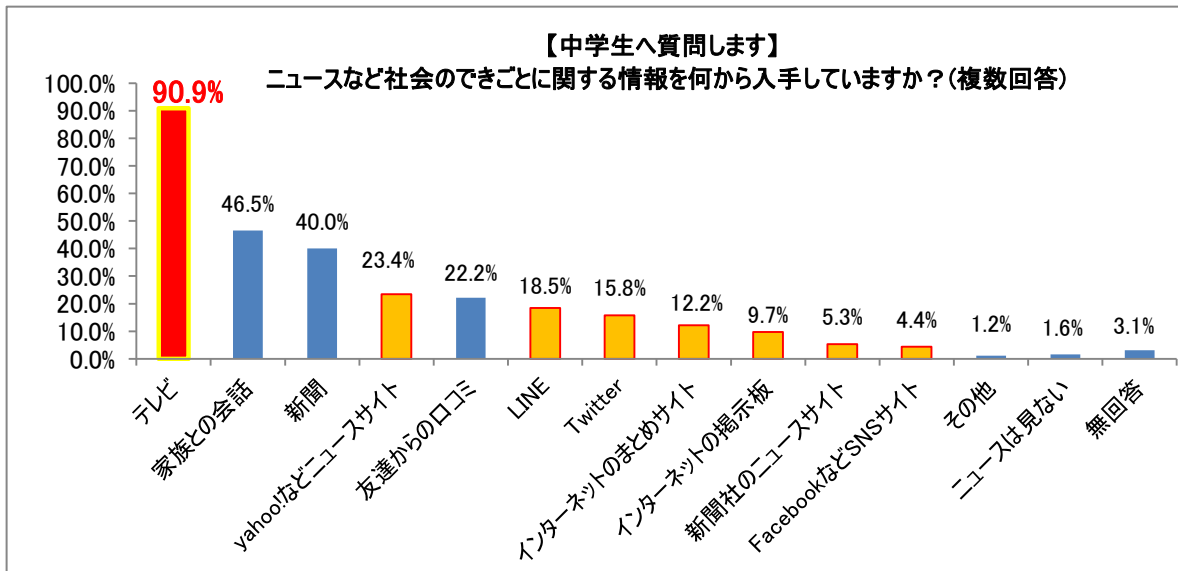
中学生の皆さん、こんにちは。平成26年8月から船橋市の広報官として働いている「小野寛昭（おのひろあき）」です。船橋の魅力をPRするため、民間企業からやってきました。私は、神奈川県茅ヶ崎市出身です。たまに、自分の出身の街がテレビや雑誌で取り上げられると、ものすごく嬉しいものです。

ですから、みなさんが「船橋をもっともっとPRしてほしい！」という気持ちがとてもよくわかります。これからも「船橋の良いところ」をたくさん見つけてPRしていきますので、皆さんも、見つけたらぜひ教えてくださいね！



突然ですが、、皆さん、身近な情報（グルメやショッピング、旅行、趣味、好きな芸能人など）って、どんなところから入手していますか？

以下のデータは、昨年「ベネッセ教育総合研究所」が調査したデータです。



テレビがダントツで1番ですが、注目すべき点は「Yahoo!」や「LINE」「Facebook」など、情報入手にインターネットを使う中学生の多さです。インターネットを使った情報集めは、今や当たり前なのですね。私が中学生の頃は、「パソコン」「スマートフォン」という便利なものはありませんでした…

船橋の魅力をPRするためには、テレビのほかインターネットの活用も必要ですね。

でも、同じ質問を大学生に聞いてみると？働くお母さんだったら？年配の方々であれば？……

一体どんな結果が出るのでしょうか。わたしは、情報を届けるとき、その内容はもちろんですが、「届けたい相手」を常に意識しています。テレビ、インターネット、雑誌やフリーペーパー、ラジオ、チラシにポスター、町内の回覧板まで、あらゆる媒体を駆使して、PR活動を行っていきます。

皆さんが感じているとおり、船橋にはまだ知られていない魅力がたくさんあります。「届けたい内容」と「届けたい相手」をしっかり捉えて、これからも多くの人たちに「船橋」をPRしていきたいと思っています！

<最後に>貴重な情報源「口コミ」も忘れずに！おもしろスポットを発見した時やウマイものを食べた時、頑張っている人と会った時…は、友達や家族・親せきなど多くの人にどんどん伝えてください。たくさん広めてください。それも立派な「魅力PR」なんです！！

第2位 道路を広くし街灯を増やして、より安全なまちへ

- 学校の周りや通学路の街灯などを増やし、まちを明るくします！
- 自転車の乗り方などのルールを徹底します！

船橋市の道路って確かに狭いところが多いですね。船橋市の道路が狭い大きな理由として、第2次世界大戦時に幸いなことにほとんど爆弾を落とされなかったために、昔のままの道が残り、その周りに家がたくさん建ち並び、道路がなかなか直せなくなってしまったことと、毎年2万人ずつ人口が増加した昭和40年代に、学校等の施設整備が優先されたため、道路整備になかなかお金を使うことが出来なかったことが挙げられます。

現在、少しずつではありますが、土地所有者の方々の協力を得て用地取得を行い、道路の拡幅整備を行なっているところです。土地所有者の協力を得るためには、事業の必要性などを個別に説明・交渉していきます。そのため、道路が広がるまでには、とても時間がかかりますので、危険な箇所については、少しでも安全が確保できるよう道路整備をしていきます。

また、時間のかかる道路の拡幅にかわって、車のすれ違いが出来ない道路については、地域の方々全員の合意を得るのが非常に大変ですが、一方通行化を進めていますし、さらに、生活道路における歩行者等の安全対策として「ゾーン30」の方法も進めています。



至 古和釜
公舎 坪井公民館
坪井小学校
坪井中学校
至 西船橋
至 四船橋
船橋日大前駅
栄楽高速線
ホームセンター
日本大学



本中山地区のゾーン30

坪井地区で「ゾーン30」指定区域内で最高速度を制限

市では、子どもたちの安全を確保するために、船橋東警察署と連携し、2月末に坪井地区の一部を「ゾーン30」に指定しました。左図参照。これは、指定区域内での走行を時速30キロメートルに制限するもので、市内では本中山地区に続き2番目となります。

④ 道路建設課 ☎436・2593

児童が登校中に交通事故が発生しています。故に巻き込まれる例が全国で発生しています。ゾーン30は、このような事故を防ぐために生活道路における歩行者等の安全な通行を確保することを目的としています。この区域内では、速度を30キロメートルに規制します。今回、指定区域をわかりやすくするために、入口部分に警察による30キロ規制の標識を設置。市ではゾーン30の路面標示、カラー舗装、スムーズ横断歩道（横断歩道をかまぼこ状に盛り上げたもの）や狭く車道幅を狭くするものを設置しました。このように、警察が行う交通規制と、市による道路整備を組み合わせることで、より高い効果が得られます。

皆様のご指摘のとおり、学校や公民館、公園等の公共施設周辺や、幹線道路などでも、「夜道が暗い」との声が寄せられています。

こうしたことを解消し、提案に対して具体的に取り組んでいくため、関係部署で課題を整理しながら、解決策について協議を重ねてきました。

その結果、平成27年度に、船橋市独自の「道路照明灯整備基準」を策定し、暗く危険と思われる道路を中心に照明灯を設置していくことが決まりました！

また、自転車の安全利用については、平成27年度から、自転車の交通ルールやマナーを周知するため、図書館や公民館、出張所、老人福祉センター等の市内公共施設各所に自転車安全利用対策用のポスターを掲示していきます。さらに、中学生を対象としていた「スクアード・ストレイト自転車交通安全教室」※1や、自転車に係る交通安全指導の場をより多く、市民の方々に提供することで、自転車の安全利用を推進し、事故防止を図っていきます。



まちを明るくする防犯



スクアード・ストレイト
自転車交通安全教室

※1 スクアード・ストレイト自転車交通安全教室

スタントマンによるリアルな交通事故再現を取り入れ、恐怖を実感することで、それにつながる危険行為を未然に防ぎ、自転車の交通事故の抑止に役立てることを目的としています。

第3位 ボール遊びができる公園をつくり、スポーツがより盛んなまちへ

- ・国際的な競技ができる施設をつくります！
- ・公園利用のルールや方針を明確にします！

船橋市は、都市宣言のひとつとして、「スポーツ健康都市宣言」※2を行っていますし、確かに、船橋市でオリンピックなどの世界的なスポーツ大会が開催できたらワクワクしますよね。

国際的な競技大会を開催するには、陸上競技で言えば、日本陸上競技連盟により第1種認定を受けなくてはなりません。県内で第1種認定を受けているのは、県総合スポーツセンター陸上競技場1箇所だけです。

室内競技では、船橋市総合体育館（船橋アリーナ）で平成18年にバレーボールのワールドリーグ「日本対ポーランド戦」が行われており、バスケットボールも国際試合ができる仕様となっています。様々な国際的な競技ができる施設を造るためには、建設地の選定や土地の確保、維持管理費を含めた建設関連費用などクリアすべき諸問題もあるので、現状の施設を工夫して、スポーツがしやすい環境維持に努めていきたいと考えています。

また、中学生の皆さんから、「ボール遊びができる公園がほしい！」という提案がありました。確かに、公園なのにボール遊びができないのは変な感じがしますよね。公園にも色々な種類があって、規模の大きな「近隣公園」には、ボール遊びのできるような広場が設置されていますが、近隣公園の規模に見合った公園用地の確保はなかなか難しいものがあります。それより狭い「街区公園」※3においては、他の公園利用者や近接居住者への配慮から「他の人の迷惑となるボール遊び」は禁止しています。

今回の提案を受け、「街区公園」でも、対象年齢や時間帯を限定するなどのルールを作ることで、ボール遊びが可能かどうか、先進的な取り組みをしている他自治体などを参考に、一年間を目途に検討していきます。

※2 スポーツ健康都市宣言

私たち船橋市民は、地域に根ざしたスポーツ活動を通じて健康で豊かな心とからだを育て、活力ある近代的な都市をめざして、ここにスポーツ健康都市を宣言します。

一、市民一人ひとりがスポーツに親しみ、健康な生活を営もう。

一、みんなでスポーツを楽しむ機会をつくり、子どもを健やかに育てよう。

一、スポーツを通じて、いきいきとした地域の輪を広げよう。

一、スポーツを通じて多くの仲間とふれあい、はすむ心を世界に伸ばそう。

昭和五十八年十月十日



広場のある西船みどり公園

※3 街区公園

公園を中心に半径250m以内に住んでいる人が主に利用する公園

第4位 ポイ捨てを減らして、きれいなまちへ

中学生の皆さんからは、「たばこのポイ捨て対策として、喫煙所を設置した方が良い！」という提案がありました。喫煙所を設置するためには、喫煙者が利用する数多くの設置スペース、設置費用、清掃の管理費などが必要となります。さらに、たばこを吸わない人たちのために、受動喫煙防止の対策をとらなければならないなど、多くの課題があり、喫煙所を設置することは難しい状況にあります。

このため、たばこのポイ捨ては、本来モラルの問題であり、早朝・夜間時間帯を含むパトロールや各駅前でのキャンペーンの実施、看板や路面標示シートの設置、環境関連イベントなどでの周知啓発を積極的に行ってきました。今後も、このような取り組みを強化して、ポイ捨てをしない環境づくりに取り

組んでいきます。

また、「ごみのポイ捨てを減らすために、公園内にゴミ箱を設置した方が良い！」という提案もありました。実は、公園のゴミ箱は、過去に家庭ゴミなどが持ち込まれ、公園内にゴミが散らかり、地域の人からゴミ箱の撤去の要望が多くあったため、市としてゴミに対する意識の向上という観点で、新たなゴミ箱は設置していません。

地域の皆さんに公園を気持ちよく使っていただくために、「ゴミは各自でお持ち帰りください」「ポイ捨て禁止」といった看板を設置しており、今後も、公園内でのマナーを守っていただくよう呼びかけていきます。なお、たばこも同様に、公共の場所では喫煙をしないようお願いしていることから、公園内に喫煙所を設置することは考えていません。



路上喫煙防止の路面標示シート

第5位 音楽ホールをつくり、音楽が盛んなまちへ

現在、多くの市民の方々に親しまれている市民文化ホールは、定員 1,000 名の大ホールです。この市民文化ホールより大きな音楽ホールを建設する場合、広大な建設用地が必要になります。また、市外からも大勢のお客様が来場しやすいような立地も考えなければなりません。船橋市は、高度経済成長期に一齐に学校等の公共施設を建築したため、学校の修繕、清掃工場建設等が、ほぼ同時期に設備更新を迎えます。したがって、ホールのような大規模施設建設の際は、市の財政状況全体を見ながら、計画的に建設する必要があります。現在のホールの耐用年数が限られている中、音楽が非常に盛んな船橋市にとって、今後、ホールのあり方をどうしたらよいか、市民の方々の様々なご意見を聞きながら、検討していきたいと考えています。

また、中学生の皆さんから「演奏技術を教えるイベントを開催してほしい！」という提案もありました。こういったイベントは、子供たちに音楽への興味を抱かせるだけでなく、基礎や技術を磨いていくために必要な実践の機会にもなり、音楽界の将来を担う演奏家の育成につながるものであると考えます。皆さんの提案を受け、プロの演奏家に接する機会を増やすために、今後は、今行っている音楽鑑賞教室やワークショップに加え、ゲネプロ（公演前の全体リハーサル）の見学等、工夫をこらしていきます。

さらに、ボランティアとして演奏技術を教えていただける方を広く募集していく予定です。

船橋市では、毎年2月に「ふなばし音楽フェスティバル」と題し、市内最大の音楽イベントである「千人の音楽祭」や公民館等での「地域ふれあいコンサート」など、様々な音楽イベントを開催してきました。さらに、今年度からは、秋にも音楽フェスティバル「ふなばしミュージックストリート」を開催しました。「音楽でまちを元気に！」をテーマに、駅前や商店街など、まちのいたるところを音楽ステージにして、音楽に包まれた一日を生み出すイベントとなりました。今後も、「ふなばしの音楽の力」を全国に向けて発信できるようなワクワクする音楽イベントを開催していきたいと思えます。



ふなばしミュージックストリート

第6位 バリアフリーを進めて、高齢者にも障害者にも住みやすいまちへ

高齢者や障害者のために住宅のバリアフリー工事をする市民の方々に対して、工事費用の助成や貸付による支援を行っているのをご存じでしたか？その他、皆さんも利用する駅のバリアフリー化は、高齢者や障害者を含む全ての方々が、便利に、安全に駅を利用できるよう、鉄道事業者・国・市が一緒に取り組むことになっています。

特に、段差の解消は車いす・ベビーカーを利用する方や高齢者などたくさんの方が便利に駅を利用するために大切なことで、鉄道事業者も早くから整備を進めていることから、平成28年度までに、市内にある全ての35駅でエレベーターなどが設置され、段差解消が図られる予定です。

また、バス停で待っている高齢者や障害者の方々が、夏の暑い日や雨、雪の日に、少しでも快適にバスを待てるように、バス停に屋根やベンチを整備したり、バス停以外にも広い歩道に歩行中の休憩施設としてベンチを設置していく予定です。

しかしながら、なんとといっても誰もが住みやすいまちにするためには、施設・設備の整備だけではなく、生活マナーの向上や高齢者、障害者等に対する理解・協力（＝「心のバリアフリー」）が必要だと考えています！



JR南船橋駅のエレベーター

第7位 積極的にイベントを開催し、地域交流の盛んなまちへ

船橋市は、地域のために活動する多くの市民の方々の「市民力」によって支えられています。船橋の将来を担う皆さんが、地域を支える大人の方々と一緒に活動することで、人と人との協力が大切さを実感することは、「ふれあいに満ちたコミュニティの育成」につながり、「生き生きとしたふれあいの都市・ふなばし」の実現に欠かせないものと考えています。また、地域のために活動することで、自分も地域の一員であることを実感できるのではないのでしょうか。

今回、皆さんから提案のあった「あったかほっかほか船橋」プロジェクトの一環として、平成27年度の夏休み期間中に、中学生・高校生・大学生・専門学校生の皆さんが地域で活躍する市民活動団体、ボランティアグループの活動を実際に体験するイベントとして、「(仮称)地域に飛び出せ！！ふなばし夏のボランティア体験」の開催を、市民活動サポートセンター運営協議会と検討していきます。

平成27年度には、人口が多い団塊の世代（昭和22年生から昭和24年生まれ）が65歳を越えることになり、こうした方々の生きがいにつなげるためにも、ますます地域住民同士の助け合い、支え合いが重要となっていきます。平成32年度までには、助け合い活動（日常生活でのちょっとした困りごと、例えば、電球の取替え、家事手伝いなど）を担える団体をさらに増やすことで、船橋市に住む全ての方々が安心して暮らせる地域づくりを進めていきたいと考えています。



親子での地域交流会

第8位 交通の便を良くしたり、交通渋滞を解消して、暮らしやすいまちへ

船橋市では、公共交通の不便な地域を解消するため、市・バス事業者・市民の方々が連携してバスを運行していく仕組みをつくっており、路線バスとして運行が継続できるよう運行経費の50%を上限に補助金を交付しています。現在、この仕組みを利用して、八木が谷・丸山・田喜野井の3地区でバスの運行がされています。今後も、この仕組みに基づき補助金を交付するとともに、他の公共交通不便地域についても市民の方々の要望により検討していきます。

交通渋滞の解消については、渋滞しやすい交差点の幅を拓けるなど、道路構造の改善もありますが、提案にあった、バス会社と連携した一日乗り放題のバスチケットを販売することや、そのチケットを見せることで、指定した商業施設で買い物するときに割引やサービスを受けられるようにすることは、渋滞の解消だけでなく、走っている車の台数を減らして温室効果ガスを削減するなど、様々な効果を生み出すことも期待でき、動機づけを図る方法としてとても良い提案だと思います。

また、提案のあった水上バスの運行は、利用者の移動時間や運賃等を考えると、日常生活における交通手段としての利用が見込まれず採算性が低いと考えられるので、実現の可能性について十分な検討が必要です。それでも、船橋市は海に面していますし、市内には川も流れているうえ、“船橋”の地名からも、市民の方々は「船」に親しみを持っていると思います。ですから、単なる移動交通手段でなく、船に乗ること自体が目的となり多くの方に利用してもらえるような楽しい仕組みができれば、水上バスを運行することができるようになるかもしれません。皆さんの良いアイデアをお待ちしています。



水上バスのイメージ

第9位 あいさつ運動を推進して犯罪を減らし、犯罪に強いまちへ

平成15年に17,000件を超えていた刑法犯の認知件数は、10年連続して減少を続け、平成25年には約6,400件となりました。この要因としては、警察の取り組みはもとより、町会・自治会等の自主防犯パトロール隊の活動や、事務所の方々の「船橋ひやりハッと防犯ネットワーク」※4への加入など地域の防犯活動が実を結び、市民の防犯意識が高まったことが大きいと考えられます。

また、平成18年1月に児童・生徒防犯対策室が設置され、同年9月にスクールガード事業が始まり、登下校の子供たちが犯罪に巻き込まれないように地域の皆様の見守り活動がスタートしました。以来スクールガードの登録人数は年々増加しており子供の不審者被害件数も減少しています。

今回、提案がありました「あいさつ運動」は、地域の人と人とのコミュニケーションを深め、犯罪の起こりにくい環境を作ることにつながります。

現在、多くの小学校・中学校において児童会や生徒会による「あいさつ運動」を行っておりますが、学校敷地内で行っていたり、学校ごとに実施期間も異なっていたりと、地域の方々と一緒に取り組む機会が少ない状況です。



登下校時のスクールガード

今後、児童生徒のみならず保護者・スクールガード・地域の方々などを含めた「あいさつ運動」を展開するために「(仮称) あいさつ運動強化月間」等を定めることで、改めて“あいさつ”を意識してもらい、地域のコミュニケーションの活性化を図り、さらなる防犯意識の向上にも努めていきたいと考えています。

※4 船橋ひやりハットと防犯ネットワーク

市内の事業者に協力を求め、事業所・営業車両等に防犯ネットワークのステッカー等を掲示することにより、地域の「守る目」を増やすとともに、可能な範囲で市が配信する不審者情報等を店舗等に掲示し、周辺の住民への注意喚起を促す。



市内中学校でのあいさつ運動

第10位 勉強スペースの確保や学校図書館の充実により、勉強のしやすいまちへ

皆さんからの提案を受け、公民館の集会室等を夏休み期間中に自習スペースとして提供するため、試験的に平成27年度から10館で実施します！また、現在、平成28年秋に完成予定の新西図書館には、自由に勉強ができる学習コーナー（35席）を設置し、多目的室（24席）も講座・研修等での利用が無いときには学習スペースとして利用できるようにする予定です。

平成26年度は、市全体で約8万7千冊の本を学校図書館に入れることができ、その結果、市全体の蔵書数は大幅に増えました。また、皆さんは、どの学校の図書も図書物流を利用して借りることができ、読みたい本が皆さんの手に届きやすくなりました。

そこでさらに、学校の中で読書の楽しさを知り、読書の習慣を身に付けてもらうためにも、小学生・中学生が読んでみたいという魅力ある本を紹介したいと考えています。例えば、高校生が今まで読んだ本の中から、小学生・中学生に薦めたい本や、中学生がこれまで読んだ本の中から、小学生に薦めたい本など、「先輩からのお薦めの本」として学校図書館に置いてもらい、皆さんの手に届くようにしていきます。

また、平成27年度から、中学校の学校図書館に週5日（月～金、ただし長期休業中などは除く）図書事務職員がいるようにすることで、より利用しやすい学校図書館にしていきます！



勉強スペースのイメージ

第11位 自然環境にやさしいまちへ

船橋市では、学校や公民館に太陽光発電を設置したり、北部・南部清掃工場ではゴミを燃やした熱を利用した発電を行っているほか、西浦下水処理場では市内企業と連携して小水力発電の研究開発を行っています。このほかにも、エネルギーの有効活用ができないか検討してきたところ、建て替え事業が進められている北部・南部清掃工場で、現状よりも約4倍の発電が行えるようになる予定です。また、下水処理の工程で比較的まとまって得られるバイオガスを活用した発電や下水処理後に発生する汚泥をエネルギー利用できないかなど、検討を進めています。

今回、提案のあった「生き物が住みやすい環境」にするためには、まず、河川の水質改善と自然環境の保全・再生が必要です。汚水を下水処理場で処理することで、海や川に汚水が流れ込むのを防ぎ、水質を改善しています。

現在では市人口の約80%にあたる市民の方々が下水道を使用できるようになっており、今後も整備を推進していきます。

中学生の皆さんにも身近でできることがあります。それは、下水処理の悪影響となる生ゴミや油は下水道に流さない、洗剤を必要以上に使用しないことなどです。ぜひ、日常生活においてもご協力をお願いします。



西浦下水処理場の小水力発電装置

第12位 国際交流の盛んなまちへ

船橋市は、ハイワード市（アメリカ合衆国）、西安市（中華人民共和国）、オーデンセ市（デンマーク王国）の3都市と姉妹・友好都市を結んでおり、文化、スポーツなど様々な分野で国際的な交流を行っています。特に、西安市とは平成7年から2年おきに、小、中、高校生からなる教育友好使節団が相互に訪問し、ホームビジット（宿泊を伴わないショートステイ）などを行っています。

今後は、西安市だけでなく、ハイワード市とオーデンセ市とも、児童・生徒がホームステイなどを継続的に実施できるよう関係機関と協議をしていきたいと考えています。

現在、船橋市国際交流協会と連携して、小学校では総合学習の時間に地域の外国籍の方を派遣して、その国の文化や食事などの紹介を行っています。このような外国籍の方と交流することは、国際理解を深めるためにもとても重要なことです。今回の提案を受け、新たな取り組みとして、近隣の大学と連携を図り、留学生と生徒たちが直接話せる機会を作るよう進めていきたいと考えています。

余談ですが、ふなばしアンデルセン公園は、オーデンセ市との交流の中から生まれた公園です。デンマークの世界的童話作家H. C. アンデルセンの生まれ故郷でもあるオーデンセ市の田園風景が再現され、H. C. アンデルセンの童話作品をモチーフとしたオブジェやデザインプレートなどが園内のいたるところに設置されています。また、世界で唯一公園名称にアンデルセンの使用を許可された公園でもあります。



「ふなばしアンデルセン公園」
であそぶ船えもん

第13位 子育てのしやすいまちへ

市民の方々が子育てをより楽しく充実させるための手助けとなるよう、船橋市では毎年、子育て情報誌「ふなばし子育てナビゲーション」を発行しています。平成27年3月からは、年齢別の子育てガイドや子育て関連施設のマップ検索、子育て関連のイベント情報など、子育てに関する様々な情報を発信する子育て応援・情報サイト「ふなっこナビ」を市のホームページにオープンする予定です。中学生の皆さんから提案のあった「保育園の待機児童の解消」に向けては、これまでいろいろな方法で取組んで

きましたが、保育園への入園希望者はますます増えてきているのが現状です。

平成27年度からは、新しい国の制度としてはじまる「子ども・子育て支援新制度」の中で、市内の各地域の状況やニーズに応じて、認可保育所のほか、それぞれの地域に合った施設（駅前などで、少人数の保育ができる事業など）の整備も進めていきます。

また、幼稚園と保育園の2つの機能を併せ持った「認定こども園」の普及も進め、待機児童の解消を図るとともに、住み慣れた地域の中で安心して子育てできる環境を整えていきたいと考えています。

「一人ひとりの子供が心豊かに育っていくこと」、それは「未来の船橋を創る」ということです。そのために、船橋市は「妊娠→出産→子育て」のすべての時期を通して子供や子育て中の家庭を応援し、すべての子供が心豊かに育つよう、活気のあるまちをめざしていきます。



公園であそぶ子供たち

第14位 防災に強いまちへ

船橋市では、中学生が「命の尊さ」や「災害時に自分や周りの人の命を守る」ために何ができるかを学習し、自らが応急救護など災害時の対処法などを身につけることを目的とした防災学習を平成17年度から実施しています。防災学習では、自分が住んでいる街や通学路における危険箇所及び避難施設等を白地図に書き込み、オリジナルの防災マップを作成して自分の街の実態を知る「災害図上訓練（DIG）」、心肺蘇生法や三角巾を利用した応急救護等を行う「震災時応急救護訓練」を実施しているほか、中学生自身に災害時に自分達ができることを考えてもらっています。

今回、皆さんからは「災害時や緊急時には、自分たちも支援活動を行います！」という提案を受けました。中学生の皆さんから、このような素晴らしい提案があり、非常にうれしく思っています。

災害時は、大人だけでなく、高校生や中学生も救助活動や支援活動を行う可能性が十分にあります。

提案を受け、新たな取り組みとして、平成27年度の総合防災訓練（避難所運営訓練）では、全市立中学校を中心に訓練を実施する予定ですので、中学生が参加できるような訓練を検討します。

また、防災グッズの充実については、船橋市地域防災計画に基づいて、食料品や生活必需品等の備蓄品を、全市立小学校（54校）、全市立中学校（27校）、全公民館（26施設）など、たくさんの公共施設に整備しました。（全避難所132施設への備蓄整備完了）

特に、今年度は、特別支援学校金堀校舎及び高根台校舎に福祉避難所用の災害用備蓄品を整備するとともに、各避難所に手指消毒剤等の備蓄品を新たに整備したほか、災害時用飲料水・災害時用医療備蓄品も整備しています。

今後も災害用備蓄品については、今の時代に合っているかなど常に検討を行い整備していきます。



身を守る3つの安全行動

番外 立体機械式地下駐輪場を新設してほしい！

船橋市内の駅周辺における放置自転車対策として各駐輪場の運営や、街頭指導による放置自転車防止の啓発及び、放置自転車の撤去活動などを行っています。毎年10,000台を超える放置自転車があります。主な原因としては、駅近くに自転車を止めたいと思っている方が大勢いることに対して、駅近くの駐輪場が不足していることが要因のひとつとして挙げられます。

不足している駐輪台数を確保するためには、新しく土地を見つけて駐輪場を新設したり、既存駐輪場の増築や平置き駐輪場の階層化、また、提案のあった立体機械式地下駐輪場の設置などが考えられます。

立体機械式地下駐輪場を設置するためには、高額な建設費用と、毎年、施設を維持管理するための費用がかかりますので、設置するには駅周辺の駐輪状況やまちの様子を十分に考えて、掛かる費用に対する効果を検証し、市民の方々にご理解いただくことが必要です。

駅によっては、どうしても駐輪場としての必要な用地を確保することが不可能な場合もありますので、立体機械式地下駐輪場はとても有効な手段であり、設置について考えていきたいと思えます。



立体機械式地下駐輪場のイメージ

中学生の皆さんと船橋の将来を一緒に語り合うことができ、とても楽しかったです！素晴らしい提案を、たくさん発表していただき、本当にありがとうございました！

皆さんからいただいた提案をもとに、船橋市のさらなる発展に向け、全力で取り組んでいきます！

「こども未来会議室」プロジェクトチーム一同



平成26年度「こども未来会議室」報告書

編 集：「こども未来会議室」プロジェクトチーム

事 務 局：船橋市役所

市長公室 市民の声を聞く課

発行年月日：平成27年3月
